平成２７年８月　全員協議会

平成２７年８月５日（水曜日）
東京電力(株)代表執行役社長　廣瀬直己　氏

※　　８月５日の全員協議会について

東京電力（株）代表執行役社長

東京電力（株）の廣瀬である。

本日は、福島県議会全員協議会において、発言の機会をいただき感謝する。

我々の事故から間もなく４年５カ月が過ぎようとしている。このような長きにわたって引き続きたくさんの皆様に大変な心配と苦労、不便をかけていること、この場をかりて改めておわびする。本当に申しわけない。

本当にこのような長きにわたる状況を少しでも早く直していかなくてはならない。また、復興に向けて一日でも早くそれを緒につけていかなくてはならないと強く思っている。そこに向けて東京電力（株）としてもさまざまな取り組みをしているが、本日はそうした取り組みの幾つかを紹介したい。

まず、何といっても福島第一原子力発電所の状況を、また心配をかけることのないようにしていくことが一番大事であると思っている。これによって、ふるさとに戻ろうと計画している方に不安を与えてしまう、あるいは風評被害により物が売れなくなってしまうといったことが起きている。ぜひともこれをしっかりやらなくてはならない。

そうした中で幾つか、ここ最近になって少しずつであるが前進が見られるような状況も出てきている。

まず、汚染水対策であるが、これは既に案内したように、タンクにたまっていた汚染水は、１回は全体の処理が終わった。まだまだ新しく地下水は入ってくるので、これはもちろん続けて処理しなくてはならないが、タンクにたまっていた水については、かなりのレベルでリスクを下げることができたと考えている。

同様に、タービン建屋等の海側にあったトレンチの中に、事故直後に相当濃度の高い大量の水がたまっていた。トレンチは５ｍ×５ｍのかなり大きなトンネルが地面の相当深くに入っている。このリスクは非常に大きいと考え、これを何とか取り出そうということで、昨年のちょうど今ごろドライアイスや氷を入れるといったことを行った。なかなかうまくいかず心配をかけたが、２、３号機それぞれにあるトレンチの水をほぼ全部取り出すことができている。これは濃度が高かったため、かなりリスクを下げることができたと考えている。

また、汚染水以外にも廃炉に向けた取り組みとして、４、５日前の日曜日に、我々も固唾をのんで見ていたが、３号機から落ちてしまった燃料交換機という相当大きな機械を無事に取り出すことができた。これにより３号機の使用済み核燃料取り出しに向けて一歩近づけたと思う。

また、１号機のカバー取り外しも始まっているので、まだまだ時間はかかるが、４号機に続いて使用済み燃料をプールから出して、万全な共用プールへ移動する動きが始まってきた。

こうした取り組みは、引き続き7,000人もの作業員が毎日福島第一原発のサイトで、暑い中頑張っており、その頑張りによるものであると思っている。この7,000人の約半分が福島県内の方であるので、その意味でもありがたいと思っており、自分のふるさとを何とか早くきれいにするという考えで頑張ってもらっていることに感謝している。

この取り組みは長くかかるので、今そのように頑張ってもらっている作業員の労働環境を少しでもよくする観点から、温かい食事を３食提供できる給食センターや休憩所もできた。まだまだ改善しなくてはならないが、全面マスクをしなく

てもよいエリアも大分ふえてきた。そうしたことで、頑張っている作業員に少しでも安心して働きやすい環境で仕事をしてもらう取り組みも進めていかなくてはならない。

前向きなものもあったが、先ほど議長からも話があったように、ことし１月には福島第一原発でも、第二原発でも死亡事故を起こしてしまった。また２月には、Ｋ排水路のデータ公開の問題で皆様に不信を買うようなことをしてしまった。まだまだしっかりしなくてはならないことは多々あると思っているので、引き続き気を引き締めて進めていきたい。

次に、福島第一原発のサイト以外での取り組みについても、少し述べる。

まず、賠償である。与党の第５次加速化提言が出て、閣議決定され、今まさにその取り組みのもとで、とにかく損害をこの２年ぐらいの間に何とか少なくしていこうと、国や各自治体の力、また民間企業の力もかりながら、東京電力（株）ももちろんしっかりと、そうした取り組みをしていこうということが始まってきている。

次に、除染については、東京電力（株）の社員は放射性物質に関する知見が多少あるので、各自治体において取り組んでもらっている除染活動に役立つように、約350人の社員が現在福島県内に入って、いろいろな活動をしている。また、東京電力（株）の社員が２泊３日～３泊４日で、福島県内に入って草刈りや雪かきをしているが、これも全社員が最低１回は参加したことがある状況になった。今まで延べ17万人日の作業をした。

これから帰還が始まるにつれて、皆様方のニーズ、あるいは「こうしてほしい」というものも変わってくると思うので、それらに合わせて引き続き全社員総動員でやっていかなくてはならないと考えている。

賠償ももちろん最後の一人までしっかりしていかなくてはならない。

やらなくてはならないことはたくさんあるが、引き続き全社員一丸となってしっかり取り組むとともに、会社のリソースをここに投入して、一日でも早い復興につなげていきたい。

本日は、ほかに福島復興本社代表の石崎や福島第一原発の廃炉責任者の増田、賠償、除染、復興活動の各責任者も同席させており、いろいろな質問にしっかりと回答したいので、よろしく願う。